

## 平成25年度大洲市戦没者・ 消防および公務殉職者合同追悼式

市内の戦没者や公務殉職者を追悼するため、平成25年度大洲市戦没者・消防および公務殉職者合同追悼式が10月31日(木)、大洲市民会館大ホールで開催されました。

開会にあたり清水市長が「戦争が終わりを告げてから、68年の歳月が過ぎようとしています。唯一の被爆国である日本だからこそ、戦争の悲惨さを決して風化させてはいけません。そして、私たちはしっかりと、次の世代へ語り継いでいく必要があります。今後もお互いに力を合わせて、平和と繁栄を目指し努力していくことを誓います」と式辞を述べました。

遺族を代表して、遺族会河辺支



部の福見都志子<sup>としこ</sup>さんは、「戦争を知らない若い世代が多くなった現代、私たちは多くの助けがあり、平和な暮らしを送ることができています。戦争という辛い時代があったことを子や孫に伝えていくことが、私たち遺族の使命だと思います。また、殉職された皆様のためにも、今後、犠牲者を出さずこのない社会をつくっていただきたいと心から願います」と今後の取り組みなどについて呼びかけられました。

今回の追悼式には、市内各地より約400人が参列し、戦没者、消防・公務殉職者の英霊に対し、黙とうや献花などが捧げられました。



## 河辺学校給食センターに文部科学大臣表彰

河辺学校給食センターが「学校給食優良学校等」として、共同調理場(給食センター)部門で文部科学大臣表彰を受けました。

当センターでは、給食の安全面・衛生面の徹底化、季節・学校行事に配慮した旬の地場産物を用いた献立作りにも努めてきました。今回の表彰では、地域に根ざした運営や食に関する指導などが高く評価されました。

市内の学校給食調理場が、文部科学大臣表彰を受けるのは初めてのことです。今後も市内全施設で、大洲市ならではの給食づくりに取り組んでいきます。



## 「愛たい菜」が農林水産省食料産業局長賞を受賞

学校給食における地産地消率の向上に貢献したことが評価され、たいき産直市「愛たい菜」が農林水産省食料産業局長賞を受賞しました。

当施設では大洲市学校給食センターに対し、一日あたり約4,300食分の地元農産物を安定供給しています。生鮮野菜などの使用実績と直売所の販売実績を照らし合わせ、供給実現性の可視化や課題の抽出にも力を入れています。

現在は学校給食のほか、市内2病院、1公立施設にも食材供給を行っています。





10月20日(日)

## 地域をあげて ～大和太陽の広場～

毎年恒例の大和太陽の広場は、回を重ね今年で40回の節目を迎えました。

雨の降る中の実施となりましたが、会場には地域住民をはじめ、市内外から家族連れなど大勢が来場しました。

「みんなで走ろう・歩こう」では、地区内に設けられたコースを自分の体力に合わせてゴールを目指しました。「ふれあい広場」では作品の展示、バザー販売や芸能披露など各種コーナーが設けられ、最後には餅まきも行われ、熱気で雨を吹き飛ばすほどの盛り上がりとなりました。



10月19日(土)、20日(日)

## 練習の成果を十分に発揮 ～長浜サンデーズが中四国大会優勝～

広島県三原市民球場で行われた(財)日本少年野球連盟秋季中四国大会で、長浜サンデーズ(田淵修三監督)が9年ぶり2度目の優勝を飾りました。

この大会は、日本少年野球連盟に所属する中国・四国ブロックから勝ち上がった6チームが参加して行われたものです。

長浜サンデーズでは、硬式野球を通じて夢と希望を与えながら、青少年健全育成と野球技術の向上をモットーに、土・日の午前中、晴海ふれあいパークグラウンドで練習に励んでいます。



10月23日(水)

## いっぱい本を読んでね ～図書贈呈式・大洲保育所～

心豊かな子どもの成長を願い、読書活動の充実を図るため、国際ソロプチミスト大洲から大洲保育所の児童たちへ図書が贈呈されました。

当日は、数多くの図書が送られ、受け取った児童たちは「みんなで仲良く大切に読みます。ありがとうございました」と大きな声でお礼を述べていました。

その後、児童たちは歌やダンスを披露し、元気いっぱいの姿で会員のみなさんを楽しませていました。



10月20日(日)

## 秋だ！祭りだ！ ～河辺ふれあいフェスタ 2013～

小雨の降るあいにくの天気でしたが、河辺ふるさとの宿を主会場に、「河辺ふれあいフェスタ2013」が盛大に開催されました。

文化協会、幼稚園児、小学生による発表会をはじめ、粟津祇園太鼓の演奏、マジシャンヒガーによるマジックショー、結城ともこ歌謡ショーなどの催し物がありました。

また、屋外では各種バザーがあり、来場者は河辺地区の秋を満喫しながら楽しい1日を過ごしました。

# がんばる大洲企業



志ぐれ ひらのや  
 当店は、明治2年に創業し今年で144年目を迎え、現在は2人で製造販売を行っています。作りたてのおいしさをみなさんにお伝えするため、店頭と電話注文での販売を行っています。

販売する商品は、常に新しい商品を店頭で並べることを心掛けていて、その日作った商品が売り切れ次第、その日の販売を終了させていただいています。また、食品という人の健康に直接影響するものを扱っていますので、衛生面には特に気をつけています。

今年から新商品として、生産量も多く、良質なものが揃っている

作りたてのおいしさをみなさんに



大洲産の栗を使用した生菓子の発売を開始しました。この商品は、10月から11月下旬までの期間限定で販売し、商品を通して大洲で収穫される農産物の良さを、市内はもとより市外にも広く周知したいと思っています。

今後、伝統を守りつつ、新しいものを作り出せるように精進するとともに、皆様においしい商品を提供し、少しでも大洲の活性化につながるように頑張ります。

▽所在地 大洲14  
 電話 ②42746

## 文化財

けいじゆじ  
 溪寿寺の杉  
 大洲市指定天然記念物  
 溪寿寺所有



本樹は、神南山の麓の菅田町宇津地区にある溪寿寺の参道に位置し、樹高約25m、根回り6m、目通り5m、樹齢約400～500年になる大きな杉です。

溪寿寺は、応永元年(1394)春巖祖東和尚によって開かれたとされる曹洞宗の寺院です。宝永5年(1708)、大洲藩2代藩主加藤泰興から寺領として寺院周辺の山林が寄進されて以後、山林の保護が行われてきたためか周辺には大木も数多く見られます。

本樹は、市内にある杉の中で最も古いものと思われ、古木らしい堂々とした風格を見せています。

(昭和33年11月3日指定)

## 野鳥

カヤクグリ(茅潜)  
 スズメ目イワヒバリ科  
 大きさ14cm



冬の足音もすぐそこに聞こえる頃になると、石鎚山系などの亜高山地帯で生息していた個体が、越冬のため平地に降りてきます。

地味な色の体で地面に降りてひっそりと餌を探しているため、姿を見かけるのはまれです。しかし、厳しい冬を乗り越えて恋の季節になると、「チュリリリ……」と鈴を鳴らしたようなとても美しい音色でさえずります。

自然界は目立たない姿の鳥には、美声を与えたり、薄暗い所で生活するものには、きれいなドレスを着せたりと、生きるために変化をつけてきました。人間社会は、お手本通りに型枠に入ったように生きていくのか、それとも個性を伸ばしていくのが最善な道なのか、なかなか答えが見つかりません。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

# A L T (外国語指導助手) のつぶやき

今回から、市内に赴任している4人のALTが、日本の印象や大洲での生活で感じたこと、ビックリしたこと、普段から思っていることなどを紹介します。

ケイティ・イヤリー  
アメリカアリゾナ州出身  
2年目  
「肱川の水はとてもきれい。みんなとても優しい」



エミリー・クープ  
イングランド出身  
2年目  
「大洲はとても好きです。どうぞよろしく」



リード・サカモト  
アメリカハワイ州出身  
2年目  
「日本の文化は面白い。どうぞよろしく」



ジェシカ・リード  
アメリカニューヨーク州出身  
1年目  
「大洲の人はとてもやさしい。景色もすごくいい」



## 私たちは世界の学生である

ケイティ・イヤリー

9月下旬、大学時代の旧友が肱川を訪れ、自然豊かな肱川を非常に気に入ってくれました。彼女は、日本語、英語、ロシア語、ドイツ語が堪能で、最近ポーランド語も習い始めました。彼女が話してくれたモスクワの話はとても興味深く、徐々に魅了されていきました。

彼女と話をしている、初めて日本に来た時のことを思い出しました。東京で暮らした1年間、たくさんのすばらしい発見をしました。当時の私は、日本のすべてを知りたいと思っていました。それから数年、日本は第二の故郷となりました。もし日本に来ていなかったら、自分の人生がどうなっていたのか考えることがあります。外に一步踏み出すことで、人生観、世界観が大きく変わる可能性があります。

私は、「海外旅行をしたことがありますか」という質問をよくします。これに対して、「海外旅行なんて行かない」「不可能だよ」と答える人が多くいます。生徒たちからも、「英語力が十分じゃない」「費用が高すぎる」「一人では行けない」という答えが返ってきます。これらの返答は、私が学生時代に考えていたことと全く同じなのです。

私は今までたくさんの旅行者と出会いましたが、みんな特別な人たちではなく、ごく普通の人たちです。唯一違うところといえば、外国へ旅行する決心をした人だということです。新しいことを学びたい、世界の学生になりたいという気持ち、勇気が、海外旅行を可能にします。



彼女はロシア土産として、ロシア正教の聖タチアナが入った小さな木のブロックをくれました。聖タチアナは、学生の守護聖人です。人生とは常に学び続けることであり、もしどこか海外に旅行したいと思っているなら、ぜひ実行してください。すぐには無理かもしれませんが。色々な準備をする必要があるかもしれませんが。しかし大切なことは、みなさんが強い意志をもつことです。さあ、あなたも世界に飛び立ってください。